

## 1. 略歴

1994年3月	お茶の水女子大学文教育学部国文学科卒業
1994年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻修士課程入学
1997年3月	同 修了
1997年4月	東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程進学
2000年3月	同 修了
2000年3月	博士（文学）学位取得（東京大学）
2000年4月	椋山女学園大学人間関係学部専任講師
2003年4月	椋山女学園大学人間関係学部助教授
2007年4月	日本大学文理学部准教授
2013年4月	日本大学文理学部教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

日本近世文学

### b 研究課題

近世後期から明治前期の戯作と芸能を主な研究対象としている。作品読解を通じて表現の基底にある価値観や知識を明らかにすること、近世の娯楽文化をめぐる諸事象と現代文化との連続性を考察することを目標としている。

### c 概要と自己評価

戯作の文体と表現様式の分析から出発し、長編合巻の翻刻と書誌学的研究、戯作者山東京伝に関する研究などを積み重ねてきた。近年は幕末・明治に活躍した落語家三遊亭円朝の作品研究や、戯作に対する出版統制の実態解明にも力を注いでいる。これまで、近世後期の合巻に関する研究成果をまとめた『江戸の絵入小説—合巻の世界—』（ペリカン社、2001）、山東京伝の評伝をまとめた『山東京伝—滑稽洒落第一の作者—』（ミネルヴァ書房、2009）、古典を中心とする日本文学に描かれた妖術使いについて考察した『妖術使いの物語』（国書刊行会、2009）、戯作に対する出版統制について考察した『江戸の出版統制—弾圧に翻弄された戯作者たち—』（吉川弘文館、2017）などを発表している。

2020・2021年度は合巻に関する研究を進めるとともに、三遊亭円朝の落語を擬人化表現に着目して考察する研究に取り組んだ。

### d 主要業績

#### (1) 論文

佐藤至子、「『桜姫全伝曙草紙』と文化期の京伝・種彦の合巻」、『国語と国文学』、第97巻11号、pp.70-84、2020.11

佐藤至子、「三遊亭円朝『七福神参り』の白鼠について—動物の擬人化に関する考察—」、『東海近世』、28、pp.66-81、2021.2

佐藤至子、「合巻における自主規制—『三国太郎再来伝』から『現世扶桑太郎』へ—」、『書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史—』、pp.80-94、2021.6

佐藤至子、「『白縫譚』初編・二編の構想について」、『国語と国文学』、第99巻第3号、pp.36-52、2022.3

#### (2) 啓蒙

佐藤至子、「江戸文学にみる自然」、『和書ルネサンス—江戸・明治初期の本にみる伝統と革新—』、pp.6-15、2021.4

佐藤至子、「概観—日本文学（古典）」、『文藝年鑑—2021—』、pp.43-45、2021.6

## 3. 主な社会活動

### (1) 他機関での講義等

慶應義塾大学非常勤講師、2020.4～2022.3

講演、「古典文学のなかの自然」、印刷博物館、2021.6.5

講演、すみだ地域学セミナー、「江戸の出版事情と山東京伝」、すみだ生涯学習センター、2021.12.4

(2) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

人間文化研究機構国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター、拠点連携委員、2019.6～現在、センター運営委員、  
2021.4～現在